

フレンテ

フレンテとはスペイン語で
「前向き」という意味です。

Frente

vol.34
2008.7

男女共同参画を身近に考えました！

ff 6月のフレンテみえ Report
男女共同参画強調月間
フォルティッシモ

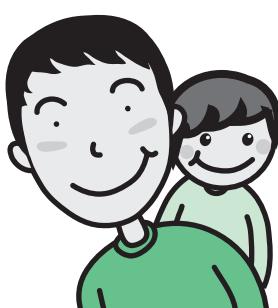
情報
盛りだくさん
ですよ！



安藤哲也さん講演会報告

ハの極意

仕事も育児も楽しむ生き方



笑っている
父親で
いよう！

理系分野に女性の活躍を！

Essay



女性だって科学がしたい

女性研究者支援に取り組む理系研究者

宮崎多恵子さん

パールの輝きで二重を元気に

小川眞里子さんエッセイ

三重の女性史作成は今

三重から世界へ、医学博士女性第二号として活躍した

井出ひろ さん

パパの極意

「男性講座」
2008
4.26

～仕事も育児も楽しむ生き方

2008年は国が進める仕事と生活の調和「ワーク・ライフ・バランス」元年です。この「ワーク・ライフ・バランス」をテーマとして子育て世代の方を対象に、安藤哲也さん講演会を行いました。講演後には安藤さんを囲んで「パパたちの本音トーク」も開催しました。また他にも、子育て支援型フリーマーケットや男性グループ「ちよいワルおやじ」のカフェ、「みえ次世代育成応援ネットワーク」の紹介ブース、「ワーク・ライフ・バランス」パネル展も開催しました。子育て中のパパを中心にたくさんの方にご参加いただきました。



安藤哲也さん講演会「パパの極意～仕事も育児も楽しむ生き方」のお話からピックアップしてご紹介します。

+ ファザーリング・ジャパンの「パパ力検定」

「ファザーリング・ジャパン」では、父親が子育てを楽しむ事業を展開しています。そのなかで2008年3月に第1回「子育てパパ力検定」^{ちから}（通称“パパ検”）を全国で開催しました。“パパ検”を通じて、子どもの成長、子どもや育児を取り巻く社会問題、あるいは自分の企業の就業規則の問題、モデルとなるべき海外の子育て事情などの知識を得ることで、自分の意識を変えていくことを目的としています。

+ 子育ては新ビジネスにもつながる ～スウェーデンの事例

内閣府では、2007年12月に「ワーク・ライフ・バランス憲章」を発表しました。一省庁である厚生労働省ではなく内閣府が発表したこと、「これは国全体の問題であって単なる少子化の問題ではない」と発表したことになります。

スウェーデンでは男性の育休取得率は90%。男性の育休が法律で義務付けられているからです。子育てをすれば男性の社会的視点が広がり、それが新しいビジネスにつながる、そして豊かな次世代をつくっていくエンジンになる、このように多くの企業のトップも行政も理解しています。だから育休を取った男性を昇進させます。「男は子育てして一人前」という社会通念がありますから、誰でも違和感なく育休を取得します。日本は北欧の国より20年遅れていますね。

+ 笑っている父親でいよう

「ファザーリング・ジャパン」のコンセプトは「父親であることを楽しもう」です。「良い父親ではなく、笑っている父親でいよう」ということ。ここが大事です。それは、仕事も子育ても自分の趣味も含めて自分の人生を肯定しているお父さん。誰かのせいにしたり、何かを犠牲にしたりとかいうことじゃなく、いろいろあるけれど楽しんで前向きに生きているお父さん、それが笑っている父親だと思います。個人、特にお父さんの意識改革を目指しています。一方でターゲットは企業だったり行政だったりします。個人の意識が変われば、父親の自立につながります。子育てを通して一人前の生活者になる、市民になる、これが大事だと思っています。

安藤哲也(あんどう・てつや)さん

1962年生まれ。明治大学卒業後、出版社に入社。書店営業で全国の書店を歩く。94年、書店員となる。東京・大塚の田村書店の3代目店長に。96年、東京・千駄木の往来堂書店をプロデュース。初代店長を務める。00年、オンライン書店bk1へ移籍。02年まで店長。その後、糸井重里事務所を経て、03年、NTTドコモの電子書籍事業へ参画。04年、楽天ブックスの店長に就任。07年10月退社。06年11月、父親子育て支援・自立支援事業を展開するNPO法人ファザーリング・ジャパン(FJ)を立ち上げ、代表に選出・就任。パパ's 絵本プロジェクトメンバー。著書に『本屋はサイコー！』(新潮社)『絵本であそぼ！』(小学館)『パパの極意』(NHK出版)がある。

NPO法人
ファザーリング・ジャパン
「Fathering=父親であることを楽しもう」という考えを持つ若い世代の父親を支援し、働き方の見直しや企業の意識改革、次世代の育成までを目標に、さまざまな事業を展開している。



フレンテみえでは、一人ひとりが性別にかかわらず、個性と能力を発揮していきいきと輝いて生きられる社会を目指して、年度の始まりに「ファンファーレ事業」を行っています。

安藤哲也さんからのアドバイス これが「パパの極意」だ！



子どもができたら OS(父親ソフト)を 入れ替えましょう。

OSとはパソコンのオペレーションシステムのことです。父親になると意識した時、大体モデルにするのは自分の父親で、自分を育ててくれた父親のやり方、価値観が思い浮かびます。しかし、それは30年前のOSだったりします。そのため、たちまちフリーズしてしまう。女性は子どもができたとたん自動的にアップグレードします。



子育てパパは仕事 もできる。ここが 結構大事です。

最近は企業の成果主義の中で、子育てができないと悩んでいるお父さんがいます。「ワーク・ライフ・バランス」は大きなライフの中にワーク、子育て、キャリアアップの勉強、地域活動、趣味などがくる関係じゃなきゃいけない。一般的なイメージはやじろべえ型で、片方に仕事、片方に子どもがいたりします。こっちを取るとあっちが犠牲になる。これは非常にストレスフル。「ワーク・ライフ・バランス」は労務管理ではなく、自分の生き方の問題です。大きな鍋の中に、仕事や子育て、介護、勉強…といった具材が混在している寄せ鍋で、各具材のいいだし汁がブレンドされます。こういう考え方をもってほしいです。



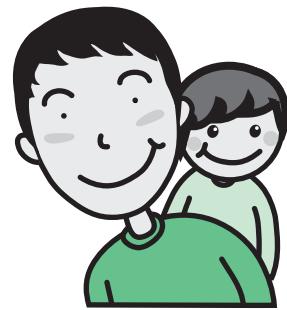
地域活動を通じて、 シチズンシップを 獲得しよう。

子どもを持つと視点が変わります。例えばこの交差点は信号が短い、ガードレールが無いなど。事故が無いと行政は動きませんが、僕らは事故を未然に防ぐため行政に働きかけていくことができます。僕は地域のお父さんたちと協力して、学校統廃合問題から学校を守りました。その後もパパたちは自然に学校に顔を出したりしています。



義務から権利へ、 客体から主体へ。

子育ては義務の面はあれども、楽しい権利。主張的に自分が何をしないといけないかわかることが大切です。そのためには、男の育児は質より量が必要。量をこなしてこそ、いい質が見えてくる。急激な都市化、核家族化、地域社会の崩壊、こういう中で母親は一人で子育てをしています。だから、パートナーであるお父さんは子どもに対して背中だけじゃなく、前も見せていく、笑顔を見せていく、頭の中も見せていくよと僕らは言っています。



パートナーシップ の構築～妻の人生 は夫のものではない。

妻の人生は夫のものじゃない。ママがどう生きていきたいのか聞いて、それを理解してサポートするという事が大事です。これが笑顔のお父さんになる秘訣です。子どものためには、ママと子どもの繩のようなくつづいた関係をどこかで断ち切ることが必要です。子どもは自立と依存を繰り返して成長します。だから、子どもはママが笑っていれば「パパがいるからママは大丈夫」と安心して繩から出て行きます。そのためには、パパがママと向き合うことが大事です。今、繩から出られない子どもが増えています。だから20歳代でいきなり繩の外に出て会社に行って、理想と現実のギャップに立ち向かえず、心が複雑骨折して、出社拒否、過労、うつになる。ゲームのリセットのように会社を辞めてしまうんです。



安藤さんからのメッセージ

父親が変われば、家庭が変わる、
地域が変わる、企業が変わる、
そして社会が変わる。

←安藤哲也さんを囲んで、子育て中のパパを中心に子育てを終了した大先輩のパパまで19名で本音トークを開催しました。子どもとのエピソードやそれぞれの子育ての問題など熱く語り合いました。

フレンテみえ R|e|p|o|r|t

フォルティッシュモ

男女共同参画強調月間



フレンテみえでは、内閣府の主唱する男女共同参画週間(6月23日~29日)にちなみ、6月を男女共同参画強調月間^{ff}とし、様々な事業を行っています。

ffスケジュール

6月	
6日(金)	フレンテまつり
7日(土)	フレンテまつり 三重県内男女共同参画センター3館&2市連携映画祭2008 映画「オフサイド・ガールズ」上映&シネマトーク
14日(土)	三重県内男女共同参画センター3館&2市連携映画祭2008 映画「老親」上映(伊賀市)
21日(土)	三重県内男女共同参画センター3館&2市連携映画祭2008 映画「ミラクルバナナ」上映(鈴鹿市)
28日(土)	フレンテみえ企画・運営サポートー自主企画事業 「見たい！聞きたい！知りたい！これがネットワークだ！」
29日(日)	三重県内男女共同参画センター3館&2市連携映画祭2008 映画「折り梅」上映(名張市)
7月 5日(土)	三重県内男女共同参画センター3館&2市連携映画祭2008 映画「筆子・その愛－天使のピアノ－」上映(四日市市)

パネル展(6月1~30日)

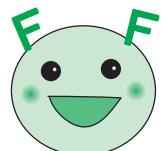
「映画でみつけよう！～男女が共に生きるヒント～」「女性のチャレンジ」

フレンテみえ登録団体のおまつり「フレンテまつり」を皮切りに始まった^{ff}のイベントには、これまで最高数の参加者の方にお越しいただきました。

「つながるひろがるメッセージ」の言葉通り、三重県の男女共同参画を推進していくためのネットワークの広がりが実感できる6月となりました。この動きがますます広がっていくことを願っています。

ここでは、その^{ff}の事業をピックアップしてご紹介します。

皆様、ご来場
ありがとうございました！



三重県内男女共同参画センター3館 &2市連携映画祭2008



昨年から引き続き、映画祭を開催しました！

2008年は、三重県内の3つの男女共同参画センターに伊賀市、名張市が加わり、5会場で上映。また、全ての会場で映画について語り合う「アフタートーク」の時間を設け、映画について深めることができました。さらに、各会場での様子を速報として次の会場で配布。いち早く映画やアフタートークの様子をお届けしました。

第1弾のフレンテみえ会場では、映画評論家の松本侑子さんを講師にシネマトークを行い、各会場5作品の映画についてお話をいただきました。「映画の世界は特に男性の天下で男性の目から作られ論じられることが多い」「もっと女性が観ても納得のいく映画が増えてほしい」「映画は楽しみながら生き方について考えさせてくれます！」と話されました。

フレンテまつり



フレンテまつりは、登録団体同士の交流とネットワークづくり、また、県民のみなさんとの交流を目的に、登録団体の自主企画・自主運営で開催しています。

今年のフレンテまつりは例年以上に「みんなで盛り上げよう！」という一体感があり、フレンテまつり実行委員会が広報などを積極的に行いました。

その効果もあり、幅広い年代の方にお越しいただき、来場者の中には、定年直後の男性が男性グループと交流をしている姿も見受け

られました。また、図書館に来られた人がふらっと立ち寄り「こんな情報満載のイベントがあったとは！」という方も。そして、子ども連れの参加者も多く見られ、賑やかに開催されました。

フレンテまつり実行委員からは、登録団体同士の交流も深まったとの声があり、今後の団体同士のネットワークづくりが期待されます。

参加者も増え、ますます賑わいのあるフレンテまつり、来年度もご期待ください！



↑毎年大人気のコーヒー販売や、広場でのダンスなどが行われ、今年も多くの笑顔がみられました。また、今年は男性グループの参加や、子育て世代の団体参加が増え、あちらこちらであらゆる世代間の交流が行われました。広場では、パワーいっぱいの子どもたちのダンスに感動して涙する人も。



来年もまた来てくださいね！

映画祭各会場からすよこっとご紹介！

「オフサイド・ガールズ」

6月7日（土）
フレンテみえ会場

イランではスタジアムでの女性のサッカービー観戦が法律で禁止されています。「理不尽なことには負けない！」と立ち向かう女性たちが置かれている状況は今の日本でも通じるところがあるという感想もいただきました。

「老親」

6月14日（土）
伊賀市会場

「介護で力尽きる前に自分を生きたい」と揺れ動く女性の姿に「誰のために生きるの？」と自分の姿を重ね合わせた人も多いはず。明るく前進する主人公が周りをも変えていく様子に力づけられたという感想をいただきました。

「ミラクルバナナ」

6月21日（土）
鈴鹿市会場

派遣員としてハイチ共和国に赴任した若い女性の前向きな取組が、周りを巻き込む姿に元気をもらえる映画。今の若者たちが「夢をあきらめない！」で活き活きと生きるための社会のあり方を考えさせられたようです。

「折り梅」

6月29日（日）
名張市会場

アルツハイマー型痴呆症になった義母の介護を通して家族の再生を描いた映画。「老いてなお輝いて」生きるために、お互いに認め合い生活することの大切さなど、これからのお族のあり方について活発な意見交換が行われました。

「筆子・その愛-天使のピアノ-」

7月5日（土）
四日市市会場

苦難の道を歩みながらも、障がい児教育・福祉の先駆者となつた石井筆子の生涯に多くの人が涙しました。「未踏の分野を切り開く！」筆子の姿に、現代の女性の置かれている状況と重ねて考えさせられました。



みやわちたえこ

生物圈生命科学准教授
東京水産大学助教・東京
大学海洋研究所CIO
研究員・放送線医学聯合研究
所主任研究官を経て、
2002年～三重大学生
物資源学部助手。
2003年 同講師。
専門分野は、魚類行動生
理学、魚類組織生理学。

一理系研究者の道を選択したきっかけは？

学生の頃は、女は大学なんていかなくていいという時代。でも、稼ぐなら理系というので家族に樂をさせてあげようと思いました。父は漁師だったので、その影響もありました。

高校2年生の時に理系を志望したんですが、母が先生に電話して「うちの子は文系にしておいてください」と言ったらしいんです。何も知らないままクラス分けをみたら文系に。でも、文系から理系を受験できる大学があり、漁業科に入り、航海士を目指しました。

一女子学生は少ないでしょう？

だから、女性用トイレなんかもすごく少なかったです。「女なんか来て困る」という先生もいました。

実習で船に乗ると「女は引っ込んでろ」と言われる。でも、船酔いがひどい私を見て「吐きながらやってる」と見直して認めてくれたんです。その時の男子学生は今までずっといい友達。男性にこういう経験があると、女性に対してすごく理解のある人になれると思います。

三重の女性史作成は今

で夫と共に研究生活を行
い、学位論文をまとめます
帰国後、東北大学で学位
論文が認められ医学博士
として女性で全国で2番
目に学位認定を受けまし
た。その後アメリカ、東京
長野県で開業し産婦人
科医として活躍。平成2
年(1990)93歳没。

“女性だって科学がしたい！”

三重大学からの呼びかけにより、県内全域で活躍する女性研究者のネットワーク“輝くパールの会”が結成されました。そして、2008年7月、三重大学で女性研究者を応援する体制ができました。呼びかけ人の一人である三重大学准教授の宮崎多恵子さんは、南極観測船「しらせ」にも乗船した経験もある海洋生物の研究者。「女性は理系に向いていないから」。そんな風潮を吹き飛ばすかのような颯爽とした印象の宮崎さんにあ話をうかがいました。

—それで航海士免許を取って航海士に？

就職はバブル全盛期だったので、大企業が採りにくるんです。じゃ、女子学生たちはというと、私は免許も取って成績も割とよかったけど「なんだ、女力」と言われ不採用。悔しい思いをしました。

当時、大きなニュースになりましたが、女性航海士が水産庁の試験を受け航海士になったんです。さすがに成績がトップだったため人事院が採用せざるを得なかった。私も同じ道をいこうと進学しましたが、研究が忙しく、その世界にどっぷり。しかし研究でも調査で船に乗れるということがわかりました。また航海士と研究者、両者の意見を汲んで、効率よく調査ができるように航海行程を提案するなど経験を活かしています。

—そして南極観測隊員に…?

就職もなく「どうしようかな」と思っている時に、ちょうど一人空きがあるからと南極行きが決ましたんです。私は女性隊員として3人目でした。

当時、南極観測船「しらせ」には約200名の乗員と南極観測隊が60名。そのなかで女性は1人。船の中でも「女なのに南極に何しに行くの?」「女はやっぱり主婦がいいんじゃないの?」とか言われましたね。

女性は、女性用の施設が無いと南極で越冬させられないという決まりでしたが、私が行った頃に昭和基地を建て直し、2年後に初の女性越冬隊員が生まれました。今は女性も越冬隊員として行っています。

一宮崎先生はどのような研究を?

私は魚の眼の研究をしています。例えば、海が濁っているときに魚はどのくらい見えるのかということを魚の行動学から測るということをやっています。私のライフ・ワークですね。

—これから研究者を目指す人へ

メッセージを。
女子学生に取ったアンケートの「結婚、出産、夫の転勤の時、どうしますか」という問い合わせで、半分が仕事を辞めると言っているんです。学生たちには「辞めたいときはいつでも辞められる。「辞めないこと」を頑張りなさい」といつも言っています。我慢する覚悟より、前に踏み出す勇気を大事にしてほしい。

今、三重大学で女性研究者支援の取組を進めています。私自身の経験を生かし、学生たちが研究者として頑張れるように環境を整えていくこと、これが私ができることだと考えています。

三重県ゆかりの女性研究者がいた！

～三重から世界へ、
医学博士女性第二号として活躍した「井出ひる」～

現在でも研究職の女性はまだまだ少ない状況にあります、「女は家庭」が当たり前の時代、研究者として活躍した三重県出身の女性がいました。



■ 執筆者紹介

小川 真里子さん



三重大学人文科学部教授
三重大学男女共同参画担当
パールの輝きで、理系女性が三重を元気に 実施実務担当者
専門分野：生物学史・医学史（主として19世紀）
科学とジェンダー
社会活動：独立行政法人科学技術振興機構・社会技術研究開発センター評議会委員、お茶の水女子大学ジエンダーリサーチセンター客員教授等
著書：『主な著書』（翻訳等）『女性と科学』（単著）『植物と帝国』（共訳）『工作舎』（2007年他）
シーピングガムと植物／技術』（単著）岩波書店（2001）
『』（他）

この度三重大学から提案した「パールの輝きで、理系女性が三重を元気に」という事業計画が、平成20年度の科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」に採択され、これから3年間、この資金を使って理系の女性研究者育成のための環境を整備していくことになりました。^{*}本プログラムに関連して、「フレンチミエ」のイベントにも参加させていただき、科学や技術といった理系分野における男女共同参画をめざしたいと考えています。

そもそも文部科学省によるこの事業は平成18年度から始められたものですが、それというのも、男女共同参画が浸透しつつある今日でも、女性の活躍がもっとも少ないのが科学技術分野だからなのです。女性の科学者、技術者が少ないので世界的なことで、欧米でもこの問題に意識的に取り組み始めたのはせいぜい20年ほど前からです。その結果ようやく、アメリカでは女性研究者の数は33%を超え、フランスやイギリスも30%に迫ろうという状況です。しかし、我が国の女性研究者の比率はいまだ12%にも届かず、OECD加盟国の中で最低です。科学技術立国と自他ともに認める日本の状況がこれでは、将来が危ぶまれるというわけです。

理系分野の女性研究者を増やそうとする理由は大まかに言って2つあります。1つは人材問題のまさに数の部分です。少子高齢化で労働人口の不足が懸念される今日、優秀な科学技術者の確保は重大問題であり、男性研究者のみでは絶対数が不足し、しかも高度な科学技術人材を外に頼ることは困難だからです。

2つ目は、人材の質すなわち多様性という観

点からです。環境問題をはじめ多くの難題が立ちちはだかる21世紀を生き抜くために科学技術の発展は不可欠であり、科学技術分野の優れた革新（イノベーション）に大きな期待がかかります。新しい発想を生み出すには、従来参画することが少なかった女性を登用して人材の多様化を図らねばならないと考えられてきているのです。この多様化には、男女だけでなくさまざまな多様性が含まれてくることは言うまでもありません。

欧洲連合は、先行するアメリカに追いつけ追い越せとめざましい政策推進をしてきていますが、そこで強調されるのは、女性の才能の浪費は国家的損失という観点です。もちろん男女平等が大前提であるには違いないのですが、それだけではなく経済的観点から見ても女性の活躍を不可欠とする現実的な読みの上に立っているのです。しかも、ただ数の問題にとどまらず重要な政策決定の場へも女性研究者を押し上げようとしています。科学や技術がまったく客観的中立的なものであれば、誰が科学を行っても同じかもしれません、実際はどのような研究投資をするか、誰が恩恵を被るかなど、私たちの暮らしは科学技術政策の動向に大きく影響されます。

私たちが推進しようとする「パールの輝きで、理系女性が三重を元気に」というプログラムも、三重県の特産品である美しいパールに擬え、輝く理系女性を育て活躍の場を開拓していくこうとするものです。県下の女性研究者が連携してプログラムを推進し、美しい真珠のネックレスとなって、県下に元気をもたらしたいと願っています。

*詳しくは三重大学ホームページのトップ画面から、男女共同参画のページにお入りいただければ、プログラムの詳細をご覧いただけます。

三重大学とフレンチミエの共催事業

男女共同参画 と イノベーション

科学分野においても、男女共同参画は世界的傾向です。講演会では全国的な取組について講師・有本さんからお話をいただきます。
「パールの輝きで、理系女性が三重を元気に」と題してパネル展も行います。

10月4日（土） 13:15～15:00（予定）
会場：三重県文化会館 レセプションルーム

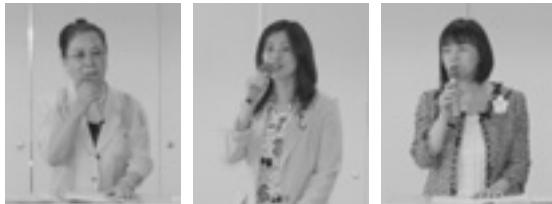
講師：有本建男さん

（独立行政法人科学技術振興機構・社会技術研究開発センター長）
みなさんのご参加をお待ちしています！

フレンテみえ企画・運営センター自主企画事業
「見たい！聞きたい！知りたい！
これがネットワークだ」を
開催しました！ 2008. 6. 28 フレンテみえ

6月28日（土）、内閣府が主唱する男女共同参画週間（6月23日～6月29日）にちなみ、フレンテみえ企画・運営センターが自主企画事業を開催しました。

この企画では、女性の元県議会議員、現県議会議員の方からのお話や、県内の男女共同参画啓発グッズの展示・紹介、また啓発事例紹介が行われました。活発に交流が行われ、有意義な情報交換ができました。



←「男女共同参画について女性議員に聞く」と題し、各議員さんから「男女共同参画のあゆみとこれから」についてお話をいただきました。

←事例紹介では、男女共同参画啓発の寸劇などが行われました。この事例紹介をきっかけに「我がまちの啓発にも寸劇を取り入れたい！」という声も聞かれました。

今回の事業をきっかけに各市町の取組に広がりができる事を期待しています。

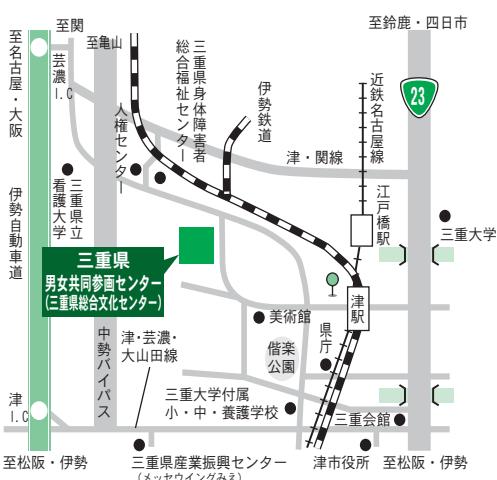
この事業についての詳しい報告書を作成、HPでも紹介する予定です。そちらも併せてご覧ください。

男女がいきいきと働いている企業募集！

News

三重県の総合評価方式による公共工事入札の評価項目に男女共同参画の県の表彰が加わりました！

三重県では、男性も女性もそれぞれの力を十分に發揮できる「働きがい」のある職場環境づくりを目的に、女性の能力活用や仕事と家庭の両立支援、次世代育成支援などに積極的に取り組んでいる企業を「男女がいきいきと働いている企業」として表彰しています。



休館日
毎週月曜日
年末年始
(12月29日から
1月3日まで)

交通
■バス／津駅西口1番のりばから約5分
■徒歩／津駅西口から約25分
■自家用車／伊勢自動車道芸濃インターチェンジから約15分、津インターチェンジから約10分
※駐車場は1400台（無料）。できるだけ公共交通機関をご利用ください。

MIE CENTER FOR THE ARTS
三重県総合文化センター

三重県男女共同参画センター フレンテみえ
〒514-0061三重県津市一身田上津部田1234番地
TEL : 059-233-1130 FAX : 059-233-1135
URL <http://www3.center-mie.or.jp/center/frente/>
E-mail : frente@center-mie.or.jp

■対象企業

県内に本店、または主たる事業所があり、営利を目的に経済活動を行う企業で、次のいずれかの項目について、制度化や取組を行っている場合。

◆女性の能力発揮や職域拡大の推進・男女均等なキャリア形成のため、従来の制度や慣行を見直し、新たな取組や制度を導入した企業

◆仕事と家庭の両立支援のための制度を法律を上回って実施している企業、安心して子どもを生み育てられるよう努力している企業

◆CSR（企業の社会的責任）活動を規定し、地域社会と共に存する企業

■応募期間

平成20年7月1日(火)～平成20年9月1日(月)必着

■応募の問合せ先

三重県生活・文化部 勤労・雇用支援室

TEL : 059-224-2454

電子メール kinko@pref.mie.jp

ホームページ <http://www.oshigoto.pref.mie.jp>